

営農情報 (水稻)

令和2年7月発行

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

1 生育概況

今年の田植えは、6月20～24日頃を中心に行なわれました。今年は好天が続き、一部で苗の水枯れが見られましたが、苗の活着は概ね順調です。また、初期除草剤の散布が遅れているほ場では、雑草が多発する可能性があります。よく観察し、除草や施肥、防除等、適期作業に努めましょう。

2 除草剤

初期除草剤を散布できなかった場合や、降雨の影響等により効果が劣り、雑草が残っている場合は、中・後期除草剤を使用しましょう。

薬剤名	使用時期	散布量 10aあたり	備考
ワイドショット1キロ粒剤	移植後15日～ ノビエ4葉期 収穫45日前まで	1 kg	○ヒエ、広葉雑草の両方に効果 ○水をためて散布
クリンチャーバス ME液剤	移植後15日～ ノビエ5葉期 収穫50日前まで	1,000ml (水100Lに希釈)	○ヒエ、広葉雑草の両方に効果 ○落水またはごく浅く湛水して散布 ○展着剤は加用しない
クリンチャー1キロ粒剤	移植後25日～ ノビエ5葉期 収穫30日前まで	1.5kg	○ノビエに効果 ○キシユウスズメノヒエに適用あり ○水をためて散布

3 水管理

- 倒伏防止のためには、水管理が最も重要です。必要茎数(20本/株程度)が確保できたら、早めに中干しを実施します。特に、「元気つくし」の倒伏防止のためには適期中干しが重要です。
- 中干し後は、間断かん水を行います。なお、中干しが不十分なほ場や、葉色が濃く倒伏の恐れのあるほ場では、強めの間断かん水を行ってください。
- 穂ばらみ期から穂揃期にかけては、最も水分が必要な時期なので出穂前後1週間ずつは湛水します。

4 穂肥

基肥に普通化成を使用した圃場では、穂肥時期の目安と施用量は、以下のとおりです。それぞれのほ場で幼穂長や葉色を観察し、穂肥時期や量を決定します。

品種	1回目			2回目	
	目安時期	幼穂長 (mm)	10aあたり施用量(kg) NK7号	時期	10aあたり施用量(kg) NK7号
元気つくし	8/2頃	5	15	1回目の7日後	10
ヒノヒカリ	8/9頃	3～5	20	なし	—
ツクシホマレ	8/13頃	2	25	1回目の7～10日後	20

5 カメムシ類対策

カメムシ類対策には、出穂期～登熟期に防除を行います。農薬散布前に発生を抑えるためには、畦畔などの草刈りが重要です。出穂14日前までに畦畔など水田周辺の除草を徹底し、カメムシの住み処を無くしましょう。ただし、イネが出穂してからの除草は、カメムシ類の水田への飛び込みを助長するので実施しないでください。

6 病虫害防除

福岡管区气象台による向こう3か月（令和2年7月から9月）の天候の予想は、気温は平年より高い見込みで、降水量は7、9月はほぼ平年並みですが8月は平年並みか少ない見込みとなっています。また、ウンカ類やコブノメイガ、紋枯病の多発が懸念されます。ほ場での発生状況を十分観察し、適期防除に努めてください。

① 葉いもちの発生を認めたら、下表のとおり早めに防除を行います。

品種	薬剤	時期	適用病虫害	希釈倍数 (10aあたり使用量)
元気つくし ヒノヒカリ ツクシホマレ	コラトップ 粒剤5	葉いもち：初発10日前～初発時 穂いもち・もみ枯細菌病 ：出穂30日前～5日前	いもち病 もみ枯細菌病	4 kg

② 基本防除は、ウンカの飛来状況も踏まえて下表のとおり8月中旬ごろに行います（詳細は次号）。

品種	剤型	薬剤	適用病虫害	希釈倍数 (10aあたり使用量)
元気つくし ヒノヒカリ ツクシホマレ	粉剤	アプロードモンカットスタークルF粉剤DL	ウンカ類 紋枯病	4 kg
	液剤	アプロードモンカットエアー ＋スタークル顆粒水溶剤	カメムシ類	1000倍 2000倍

※ アプロード剤に対するトビイロウンカの感受性が低下しているため、スタークル剤と混用して使用してください。

※ ウンカ類への効果を高めるため、防除作業は湛水状態で行います。

③ 出穂前～出穂期の2回目の防除は、以下の通りです。

元気つくし・ヒノヒカリは補正防除、ツクシホマレは基本防除になります。

品 種	防除時期	薬 剤 (全品種とも粉・液いずれか)	適用病虫害	希釈倍数 (10aあたり使用量)
元気つくし	8/16～21頃	(粉剤) ブラシントレボン粉剤DL	いもち病 ウンカ類	(粉剤) 4 kg
ヒノヒカリ	8/25～30頃			
ツクシホマレ	8/31～ 9/5頃	(液剤) ブラシントレボン水和剤	カメムシ類	(液剤) 500倍

注) 液剤を使用する際の散布水量は、10aあたり100リットルです。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!